さあ サロベツ湿原へいこう!

サロベツってだれがつけたの?

この一帯は、アイヌの言葉で湿原を流れる川（サル・オ・ペツ）と呼ばれていました。だんだん時間がたつにつれ、言葉も変わって今ではサロベツと呼ばれるようになりました。

湿原ってどんなところ?

一万年ほど前、サロベツは海とつながった大きな湖でした。やがて枯れた草がたくさん積み重なって湿原ができました。表面にはミズゴケが生えていて、いつもふんわり湿っています。水が豊かなので、いろいろな花や鳥、生きものたちがたくさん集まってくるところでもあります。中でもヒシクイなどたくさんの渡り鳥がサロベツへやってくるので、世界的にも重要な湿地（ラムサール条約湿地）として認められています。

自然再生ってなに?

サロベツでは湿原の乾燥化が進み大きな問題となっています。豊かな湿原を取りもどそうと国や町、地域の住民やサロベツが好きな人などたくさんの人たちが一緒になって活動しています！

サロベツで出会える鳥たち

泥炭産業館

かつてここで行われていた泥炭採掘の歴史を、工場で使われていた機械類などとあわせて紹介しています。

水質浄化湿地

湿原センターなどから出る水は栄養分が含まれているため４段階の池でヨシや微生物の働きにより浄化しています。

サロベツ湿原センター

サロベツ湿原の玄関口として、見どころや自然、原野開拓の歴史などについてわかりやすく紹介しています。

展示エリアでは「人と自然の共生」をテーマに、サロベツ湿原の自然、人文、歴史などについて、また自然再生の目的や取組など、様々な情報を提供しています。

浚渫船

湿原の中から泥炭を採掘する時に活躍した浚渫船をそのまま展示しています。

気をつけましょう!

- ゴミは持ち帰りましょう
- 植物を採らないでください
- 野生動物にエサを与えないでください
- 木道上は禁煙です